

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和4年４月15日　第2号

夕日のなかの彼

今日は、少し辛辣なお話を。

　何年か前の出来事です。ある小学校に勤めていた時、夕方でした。「お客さんです」と呼ばれて、職員室を出ると、大昔の卒業生が。ただ、久しぶりの再会にもかかわらず表情はさえない。

運動場の隅っこにあった丸太を半分切ってできたベンチに腰掛けてじっくり話を聞くことに。

「先生、実は昨日刑務所から出てきた。塀の中にいる間、ずっと先生の言葉がよみがえってきて、出たらすぐに会いに行こうと思って、まさか小学校にいるとは」。

彼によみがえった言葉とは、「とにかく授業を大事にせい」と私が言い続けていたとか。

彼は続けた。

「相談室で叱られて、最後に『授業だけはしっかり受けろ』って言われてたのを今になってその大事さが分かった。ちやんと決められていたことを守っていれば、こんな人生にならへんかった。もう遅いけど、これからはちゃんと守らなあかんことは守る。」

三十歳を超えたいい年をした大人がそんなことを言いながら泣いていた。

ぽろぽろこぼれる涙に夕日がさして、これで大丈夫かなと安心した。

あの時には帰れないけど、今からでも変えられる、そんな話を沈んでいく太陽とともに話をした。そういえば夕日のなかの彼に最近連絡を取っていない。電話でもしてみようと思う。